

# 第3学年 国語科学習指導案

児童 男子10名 女子9名 計19名  
授業者 外 舘 洋 文

1 単元名 大事なことをたしかめよう (光村図書3年下「あおぞら」 p.22～p.32)

2 教材名 「すがたをかえる大豆」(説明文) 国分 牧衛  
食べ物がかせになろう

## 3 単元について

### (1) 教材について

第3学年及び第4学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」である。また、「書くこと」の目標は、「相手や目的に応じ、調べた事などが伝わるように、段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに、適切に表現しようとする態度を育てる。」である。本単元で育てたい主となる能力は、「読むこと」の内容「イ 目的に応じて、中心となる語や文を選んで段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。」「オ 目的に応じて内容を大きくまとめたり、必要ところは細かい点に注意したりしながら文章を読むこと。」、書くことの内容「イ 書く必要のある事柄を収集したり選択したりすること。」である。

本単元は、「読むこと」と「書くこと」の学習が連続して設定されている複合単元である。説明文「すがたをかえる大豆」の学習では、中心となる語や文に着目しながら必要に応じて内容を大きくまとめたり、細かい点に注意したりしながら読むとともに、筆者の事例の挙げ方や述べ方といった文章のスタイルについて学ぶ。その学んだことを活用しながら「食べ物がかせになろう」の学習では本での調べ方を知り、身近な食べ物について調べ、分かりやすくまとめて友達と交流することをねらいとしている。

第1教材「すがたをかえる大豆」は、農学者の国分牧衛氏が書いた紹介文である。大豆やその加工食品について紹介することで、普段の私達の生活の中で大豆が多く食べられていることやそれだけ多くの食べ方が工夫されてきた経緯などにも気付くことができる文章となっている。

文章は、「よく食べられている大豆(形式段落①)」「大豆の特性(形式段落②)」「大豆の食べ方の工夫(形式段落③～⑦)」「多くの食べ方が考えられたわけ(形式段落⑧)」「筆者の感想(形式段落⑨)」という構成になっている。これは「はじめ(話題提示)」「なか(事実)」「まとめ」「むすび」ととらえることができ、これまで学習してきた説明文の基本的な文章構成にほぼ近い形となっている。工夫と食品が一つの段落にまとめて書かれているスタイルは、中心となる語句や文が明確であり、その書き表し方のよさにも気付くことができると考えられる。

これらの表現に着目しながら読み進めていくことによって子ども達は、普段食べている食品が自分達にとってはあまりなじみのない大豆からできているということに驚くとともに、食べ物をおいしく食べるための様々な工夫や知恵に興味をもったり、身の回りの様々な食べ物について自然に関心をもったりすることができるであろう。

また、第2教材「食べ物がかせになろう/本で調べる」は、「食べ物」にかかわる多様な材料を集め文章にまとめることで、お互いに調べた事を交流できる教材である。まず、食べ物についてたくさんの秘密を見付け、文章にまとめていくことを知り、これからの学習に対するイメージを膨らませる。次に、「食べ物」について材料・料理・食品の三つの観点から一つを選択し、さらにそれぞれについて知りたい事や疑問に思う事について、ウェビングや対話を通して調べる事を焦点化させていく。自分のもった課題について答えを見付ける目的で本を探す段階では、「本で調べる」を基に、さまざまな角度から自分の探すべき情報を見付けることができるようにし、見付けた情報は自分にとって分かるような文に短く書いていく。そして、第1教材で学んだ事例の挙げ方や文章の書き表し方を参考しながら集めた情報を基に紹介文を書き、それらをまとめた「食べ物ひみつブック」を作った上で、作品を家の人に紹介するという構成になっている。

このように、教材文から身近な食べ物について興味をもち、調べることを焦点化させ、図書資料を手がかりに情報を集めていくことを通して、課題の持ち方や情報の集め方を知ることができるようにもなると考える。

## (2) 児童について

児童は、前学年までの説明文の学習を通して、「時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」について学習してきており、「なぜ～でしょう。」「それは～です。」といった「問い」と「答え」という説明文のスタイルについて学んできている。また、「ありの行列」の学習を通して、段落が形式面だけではなく内容面でも一区切りとなっていることや、段落の内容を理解するための「大事な文（キーセンテンス）」や「大事な言葉（キーワード）」、それらを基にして段落の要点をまとめること、要点を基にして全文を要約することについて学習してきた。これらの学習内容については、その後のリライト教材などの活用や他教科での学習活動などを通して徐々に定着しつつある。しかし、普段の生活経験から考えるとそういった力を使う必要性はあまりなく、子ども達自身がその有用感を感じることも少ないと考えられる。第1教材の学習を通して上記に挙げた数々の力を確実に使えるようにするとともに、第2教材での活用も図ることで、総合的な学習の時間における探究活動などで生かそうとする態度を育てることができると考えられる。

「書くこと」については、「おもしろいもの、見つけた／様子をつたえる」の学習で、自分が見付けたおもしろいものについて、知らせたい事柄を3つ選んで調査を行い、調べたことを事柄ごとに段落にまとめて紹介文を書くという学習を行ってきた。また、「本は友だち」の学習では、おもしろさの視点に沿って必要な事柄を集めて、本の帯を作る学習を行った。日常的には、日記欄のある連絡帳を使って、毎日日記を書くことを続けている。身の回りの事をより詳しく書いたり、読んだ本の内容や感想を書いたりすることにより、文章を書く楽しさに気付く子どもも少しずつ増えてきている。これらの学習を通して、事柄ごとに段落に分けて文章を書こうとする意識や、さまざまな手段で必要な情報を集めようとする意識が深まってきている。

## (3) 指導にあたって

本単元では、大豆をおいしく食べる工夫を読み取り、自分が興味をもった食べ物について調べた事をまとめて家の人に知らせることができるようにするために、次の3点に留意しながら学習を進めていく。

1点目は、カード作りを通して文章から情報を取り出すことである。表に「(おいしく食べるための) くふう」、裏に「(出来上がった) 料理・食品」と「調理・加工の仕方・手順」、を書いたカードを作ることで、これらの関係を一体のものとしてとらえることができる。しかしカード作りのためには前記の3要素をとらえることが不可欠である。家の人にプレゼントするためのカード作りという相手意識をもたせることで、目的に応じた読み取りが意欲的に行われると考える。

2点目は、筆者の事例の挙げ方への着目である。「なか」の部分で筆者は、「炒る・煮る」「粉に挽く」「栄養をとり出して違う食品にする」「醗酵させて違う食品にする」「育て方を変える」という順序で事例を挙げている。これは「すがたをかえる」程度が軽いものから重いものへと変わっていく事例の挙げ方であり、双括型の説明文の典型と断言する論の述べ方である。子ども達は第2教材の学習で自分達が興味をもって調べた食べ物についての紹介文を書くが、この論の述べ方のよさを理解させ、紹介文作りに生かすことができるようにしていきたい。

3点目は、内容をより深く理解するための補助的な活動を行うことである。食べ物という子ども達にとっては身近な物が題材として扱われているものの、調理・加工に関わる言葉の理解については子どもによって理解の程度に開きがあることが考えられる。辞典の活用なども図るが、実体験を伴った活動の方が子ども達にとってはより深く理解が得られるものと予想される。そこで、学級園で栽培している大豆(枝豆)や黒豆の収穫、調理・加工を通して、文中の言葉を自分のものとしてできるようにし、より深く内容が理解できるようにさせたい。合わせて、食べ物について書かれた本を学級文庫に揃えておき、必読書として子ども達を読む機会を設定することで、食べ物に関する興味関心を高めるとともに、調理・加工についての理解を深めることができるようにさせたい。

#### (4) 本校の研究にかかわって

本校の研究目標は、「確かに読み取る力を育てるために、説明的文章における、意図的な書く活動を位置付けた指導の在り方を実践的に明らかにする。」である。この目標の具現化のために、本単元の学習を通して以下の3点を意識的に行う。

1点目は、1単位時間の中に位置付ける2回の書く活動である。1回目は学習範囲の段落を読んでそこからカードの裏を書く。2回目はカードの内容を交流することで明らかになったそれぞれの段落の要点を書きまとめる。そして書いたことを授業者がその場で即時評価する。カード作りという活動は児童にとって楽しいものであるが、活動を通して段落の要点をまとめるのに必要なキーワードやキーセンテンスに自然に着目できるようになるであろう。

2点目は、体言止めで要点をまとめさせることである。体言止めは児童にとって普段の生活ではあまりなじみのないものである。しかし、体言止めで要点をまとめることで文章構成がとらえやすくなったり、第2教材で組み立て表を作ったりする際にも体言止めの表記は欠かせない。体言止めの表記に慣れ、短くまとめられるよさに気付かせていきたい。

3点目は、単元の初めにリライト教材を用いた学習を位置付けることである。リライト教材を使って学習することによって、基本的な文章構成を確認したり、段落のキーワード(中心語)をとらえたりする力を付けることができる。そこで付けた力を第1教材「すがたをかえる大豆」の学習に生かせるようにしたい。

### 4 単元の目標と言語活動

#### (1) 単元の目標

- 教材文を通して身近な食べ物に興味をもち、自分の選んだ食べ物について進んで調べ、分かりやすくまとめて友達と交流しようとする。 【関心・意欲・態度】
- 本での調べ方を知り、身近な食べ物について調べ、段落相互の関係などを工夫して分かりやすくまとめることができる。 【書くこと】
- 中心となる語や文をとらえて、大豆をおいしく食べる工夫を正しく読み取り、要点をまとめたり要約したりすることができる。 【読むこと】
- 文章全体における段落の役割を理解することができる。 【言語事項】

#### (2) 本単元で行う言語活動

- 自分が興味をもった食べ物について調べて、分かったことを紹介する文章を書くこと。 【書くこと】
- 自分に必要な情報を探しながら、食べ物について書かれた文章や図鑑、事典などを、目的をもって読むこと。 【読むこと】

### 5 単元の指導計画(全18時間)

次	時	学 習 活 動	関心 意欲 態度	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	説明文学習を通して 身に付けさせたい力30
1	1	リライト教材を読み、文章構成とキーワードをとらえる。 ①リライト教材を音読する。 ②段落ごとのキーワードを抜き出す。 ③文章構成をとらえる。				◎	○	15キーワード 25文章構成
	2	第1教材を読み、学習感想を書く。 ①題名読みをする。 ②全文を音読する。 ③初発の感想を書く。	○			◎		1 題名読み 2 初発感想 3 音読
	3	学習課題を作り、これからの学習の見通しをもつ。 ①「大豆ひみつカード」、「食べ物ひみつブック」を作って家の人に伝えるというめあてをもち、学習計画を立てる。 ②初発の感想をもとにしながら学習課題を作る。 ③新出漢字を知る。 ④難語句の意味を調べる。						4 学習課題 23 形式段落

2	4	「はじめ」の要点をまとめ、「大豆ひみつカード」を作る。 ①「はじめ」の段落(①②)について、カードを作る。 ②カードを手掛かりにして、要点をまとめる。				◎	○	6 話題提示 15 キーワード 16 キーセンテンス 17 要点 27 資料
	5	「なか」の要点をまとめ、「大豆ひみつカード」を作る。 ①「なか」の段落(③④)について、カードを作る。 ②カードを手掛かりにして、要点をまとめる。				◎	○	15 キーワード 16 キーセンテンス 17 要点 27 資料
	6	「なか」の要点をまとめ、「大豆ひみつカード」を作る。 ①「なか」の段落(⑤⑥)について、カードを作る。 ②カードを手掛かりにして、要点をまとめる。				◎	○	10 指示語 15 キーワード 16 キーセンテンス 17 要点 27 資料
	7 (本時)	「なか」の要点をまとめ、「大豆ひみつカード」を作る。 ①「なか」の段落(⑦)について、カードを作る。 ②カードを手掛かりにして、要点をまとめる。 ③「なか」全体を振り返り、筆者の事例の述べ方について考える。				◎	○	10 指示語 15 キーワード 16 キーセンテンス 17 要点 27 資料
	8	「まとめ」「むすび」の要点をまとめ、「大豆ひみつカード」を作る。 ①「まとめ」「むすび」の段落(⑧～⑨)について、カードを作る。 ②カードを手掛かりにして、要点をまとめる。				◎	○	10 指示語 15 キーワード 16 キーセンテンス 17 要点 27 資料
	9	「すがたをかえる大豆」を要約し、「大豆ひみつカード」のケースを作る。 ①学習内容を振り返ることで、文章構成を確認する。 ②要点をしぼり、文章構成にしたがって要約する。				◎	○	14 写真・図 18 小見出し 24 意味段落 25 文章構成
3	10 11	「食べ物ひみつブック」の作り方を学ぶ。 ①「本で調べる」を読み、本の探し方や目次・索引の活用の仕方を確かめる。 ②調べた事柄の整理の仕方や、文章にまとめる方法を確かめる。	○			◎	○	
	12 13	「食べ物ひみつブック」を作るのに必要な情報を集める。 ①調べたい食べ物を決め、知りたい事や疑問に思う事を書き出す。 ②課題について、参考となる本やページを探し、大事な事を書き出す。				◎		
	14 15 16 17	「食べ物ひみつブック」を作る。 ①調べた事を基に、組み立て表にまとめる。 ②組み立て表を基に、事柄ごとに段落に分けて文章にまとめる。 ③清書して製本する。				◎	○	
4	18	出来上がった「食べ物ひみつブック」を読み合う。 ①友だちと「食べ物ひみつブック」を読み合う。 ②よく書けている点を評価し合う。	◎					

## 6 本時の指導

### (1) 目標

大豆ひみつカードを作り，作ったカードを基にして，⑦段落の要点をまとめることができる。

### (2) 本時の評価

評価規準

枝豆・もやしにかかわるカードを作り，作ったカードを基にして⑦段落の要点をまとめるとともに，筆者の事例の挙げ方の特徴に気づいて読み取ることができている。

Aの状況の具体的姿	Bの状況の具体的姿	Cの状況への手立て
⑦段落から大豆ひみつカードを作り，要点を体言止めの一文中でまとめるとともに，筆者の事例の挙げ方の順序や特徴と，そのよさに気づくことができている。	⑦段落から大豆ひみつカードを作り，要点を体言止めの一文中でまとめるとともに，筆者の事例の挙げ方の順序や特徴に気づくことができている。	カード作りに必要な要素を口頭で確認する。 「くふう」というキーワードを手掛かりに要点をまとめさせる。 要点が書かれた紙を使って事例の挙げ方の順序を確認する。

### (3) 展開

過程	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点(※) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価</span>
導入 3分	<b>1 前時の学習を振り返る。</b>		※掲示されている学習計画表を使いながら，前時の学習内容の確認を児童が主体となって行う。
	<b>2 学習課題を確認する。</b>		
	「大豆ひみつカード」を作りながら⑦段落の要点をまとめ，「なか」の段落をふりかえろう。		
	<b>3 本時の学習の見通しをもつ。</b>		※本時もカード作りをしながら内容を読み取り要点をまとめるとともに，「なか」の構成が確認できれば目標達成であることを共通理解する。
展開	<b>4 課題を解決するために読む。</b> (1)カードを作るのに必要な事柄を確認する。  (2) 学習段落を音読する。 (3) カード作りを通して，段落のキーワードを取り出す。 ○どんな食べ物が出てきましたか。  ○大豆ひみつカードの裏面を書きます。書き終わった人は，表の絵もかきましよう。 <b>【書く活動①】</b>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表に「要点」と「絵」</li> <li>・裏に「くわしいなかみ (手のくわえ方)」</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・えだ豆</li> <li>・もやし</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・えだ豆は，ダイズをまだわかくてやわらかいうちにとり入れ，さやごとゆでて食べるもの。</li> <li>・もやしは，ダイズのたねを，日光に当てずに</li> </ul> </div>	※キーワードにつながる要素を確認する。  ※挙げられている食べ物と，それぞれについてのキーワードを見付けることを確認する。 ※書く時には，以下の条件に合わせて書くように指示する。 ①主語と述語を落とさない。 ②それぞれの食べ物の手の加え方を，一文で書く。

22分	<p>(4)作ったカードを全体の中で交流する。 ○カードに書いたものを発表して下さい。</p> <p>(5)「手のくわえ方」についてそれぞれ確認する。</p> <p>(6)⑦段落の事例の特徴について考える。 ○⑦段落は他の段落と何か違います。何がどう違うのでしょうか。</p>	<p>水だけをやって育てたもの。</p> <p>・「大豆」ではなく「ダイズ」と書かれている。 ・植物としての「ダイズ」 ・「たね」を食べるのではない。</p>	<p>枝豆・もやしについて、手のくわえ方をカードに書くことができたか。 (カード、発表)</p> <p>※カードの文中の「手のくわえ方」「食べ物」の要素を表に位置付けていく。</p> <p>※言葉の意味を押さえたり、写真や実物を用いたりして、どのように手が加えられているのかを押さえる。</p> <p>※「これらのほかに」という言葉も手掛かりにしなが、⑦段落で挙げられているくふうは、大豆ではない事に気付かせる。</p>
終末	<p><b>5 学習のまとめをする。</b> (1)交流したことを生かしながら、段落の要点をまとめる。 ○⑦段落の要点をまとめて、大豆ひみつカードの表面に書きましょう。 【書く活動②】</p> <p>(2) 要点を確認する</p> <p><b>6 筆者の事例の挙げ方の特徴について考える。</b> ○前の時間までの要点も使い「なか」を振り返りましょう。</p>	<p>⑦段落の要点 ・とり入れる時期や育て方のくふう。</p>	<p>※書く時には、以下の条件に合わせて書くように指示する。 ①体言止めで書かせ、文末は「くふう」とする。 ②一文で要点をまとめる。</p> <p>⑦段落の要点を、体言止めの一文でまとめることができたか。(カード、発表)</p> <p>※書き終わった児童の文は、教師がその場で<b>即時評価</b>する。評価の基準は①文末が「くふう」となっているか、②「取り入れる時期」「育て方」の2つのキーワードが入っているか、③文中の助詞が「を」から「の」に書き換えられているか、で判断する。</p> <p>※早く終わった児童については、カードの表の絵に色を塗って完成させるように指示する。</p> <p>※各段落の要点の順序を整えさせたり、言葉や挿絵を手掛かりにしたりしながら、事例の挙げ方として、「すがたをかえる」程度が軽いものから</p>

20分	<p>○書かれている「くふう」は、段落が進むにつれてどうなっているでしょう。</p> <p>○今日の学習の感想を発表しましょう。</p> <p><b>7 次時の学習内容を確認する。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大豆のすがたが、大きくかわっていつている。</li> <li>手のくわえ方が、だんだんむずかしくなっている。</li> </ul>	<p>重いものへと変化していることに気付かせる。</p>
-----	--	--	------------------------------

(4) 板書計画

<p>⑦段落の要点 とり入れる時期や育て方のくふう。</p> <p>「なか」の段落をふりかえると ・大豆のすがたが、大きくかわっていつている。 ・手のくわえ方が、だんだんむずかしくなっている。</p>	<p>⑦段落の本文 写真など</p> <p>③〜⑥段落の要点</p>	<p>写真</p> <p>ダイズ：「ダイズという植物」 大豆：「ダイズのたね」 「これらのほかに」</p> <p>写真</p> <p>⑦段落は、「大豆（たね）」を食べるくふうではない。</p>	<table border="1"> <tr> <td>⑦</td> <td>段落</td> </tr> <tr> <td>もやし</td> <td>食べ物</td> </tr> <tr> <td>えだ豆</td> <td>食べ物</td> </tr> <tr> <td>てゆでる。</td> <td>手のくわえ方</td> </tr> <tr> <td>ダイズの種を、日光に当てずに水だけやって育てる。</td> <td></td> </tr> </table>	⑦	段落	もやし	食べ物	えだ豆	食べ物	てゆでる。	手のくわえ方	ダイズの種を、日光に当てずに水だけやって育てる。		<p>大事なことをたしなめよう すがたをかえる大豆 国分 牧衛</p> <p>大豆ひみつカードを作りながら、⑦段落の要点をまとめ、「なか」の段落をふりかえろう。</p> <p>・表に「要点」と「絵」 ・うらに「手のくわえ方（くわしいなかみ）」</p>
⑦	段落													
もやし	食べ物													
えだ豆	食べ物													
てゆでる。	手のくわえ方													
ダイズの種を、日光に当てずに水だけやって育てる。														